

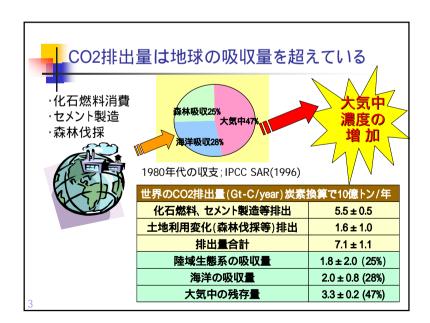
地球温暖化は防止できるか

-地球シミュレータを用いた超長期予測

電力中央研究所 環境科学研究所 重点プロジェクト課題責任者 丸山康樹 研究参事



詳細情報は以下のホームページ参照 http://criepi.denken.or.jp/jp/env/link.html





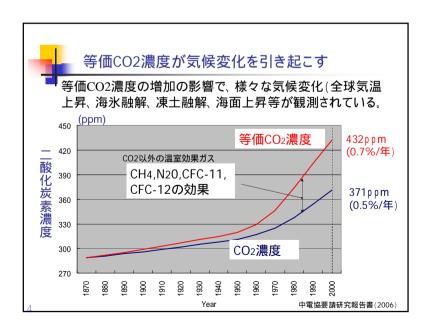
温暖化(気候変化)の基礎知識



気候変化の4つの原因

太陽エネルギーの変化(地球軌道変化) 火山爆発 CO2等温室効果ガスの変化 地球表面(森林伐採、砂漠化)の変化

気候は気象の長期的(10年~30年)な統計量(例えば、夏は冬より統計的には暖かい)。一方、気象要素(雨、晴れ、雪、気圧)の組合せである天気は、大気内部の乱れの影響を強く受けるカオス的な現象(Lorenz,1963)。50日後の天気予報(Forecast)より、50年後の気候変化の予測(Projection)のほうが容易(IPCC AR4、2007)。





国連温暖化防止条約の究極の目標

「気候系に対して危険な人為的干渉をおよぼさないような濃度レベル(水準)に大気中の温室効果ガスの濃度を安定化させること」である。その濃度レベルは、生態系、食料生産への影響が少なく、持続可能な経済発展とも両立すること、が条件。



はたして、濃度安定化で温暖化を防止できるか?

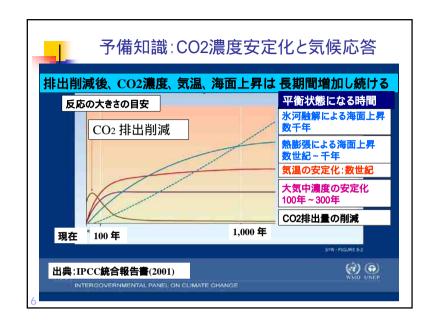
●参考: UNFCCC(1994年発効)の締約国会議(COP)において、 京都議定書が1997年12月に採択。2005年2月16日発効。



世界経済が発展するケース

過剰発展と地球温暖化の問題

7





濃度安定化の予測に用いたシナリオの特徴

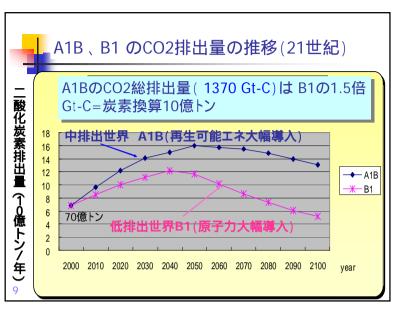
A1Bシナリオ(中排出世界)

- グローバル化が進む世界
- 低い人口増加率(0.2%)
- 高い技術進歩(3%高成長)。
- 再生可能エネルギーへの大幅シフト(アジアの一次エネルギーの約50%)
- 世界経済の地域格差は縮小。

B1シナリオ(低排出世界)

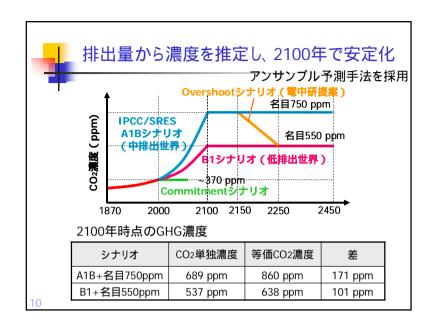
- グローバル化が進む世界
- 低い人口増加率(0.2%)
- 情報·サービス産業中心の経 済構造変化(2.5%成長)
- 原子力発電への大幅シフト (アジアの一次エネルギーの 約50%)
- 環境の持続可能性を重視

出典: IPCC特別報告書 SRES(2001)

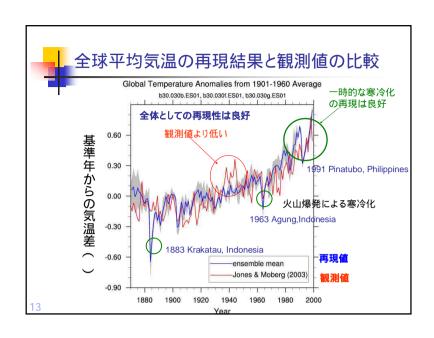


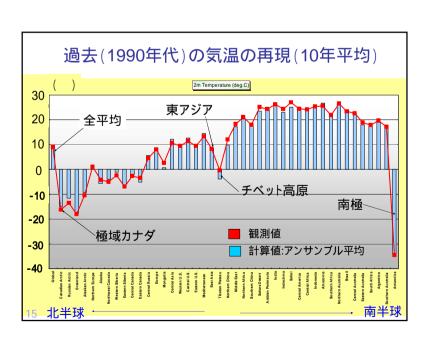


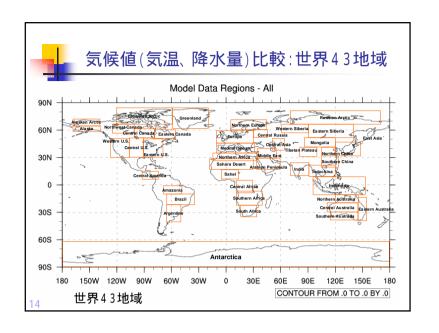
地球シミュレータセンター、海洋科学技術センター:新杉田、神奈川県

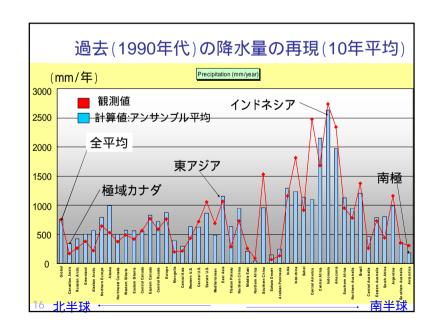


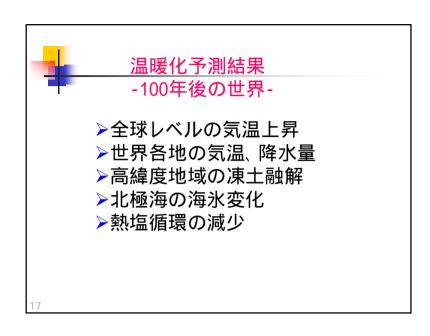


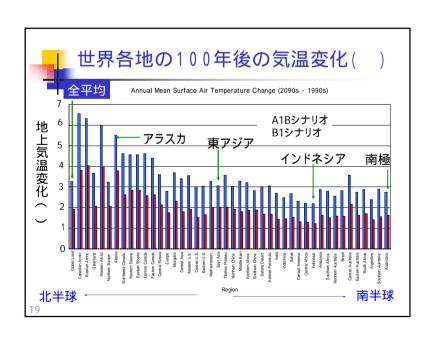


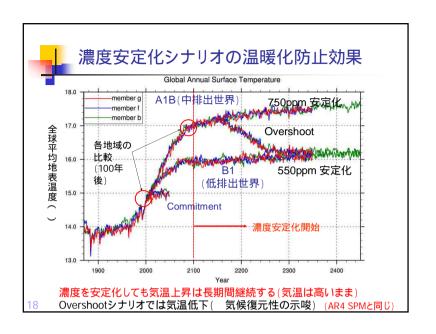


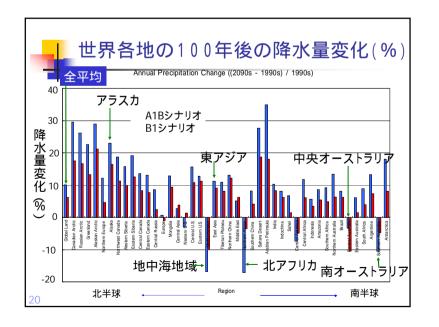


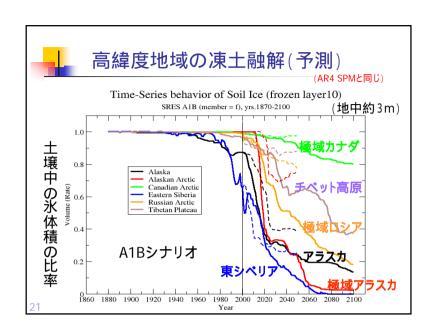


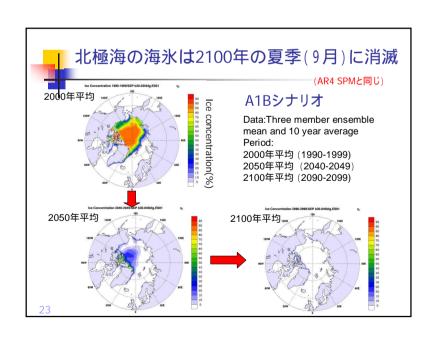






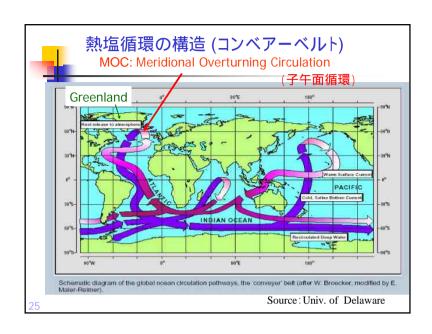


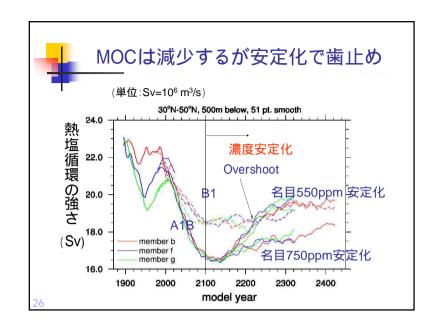


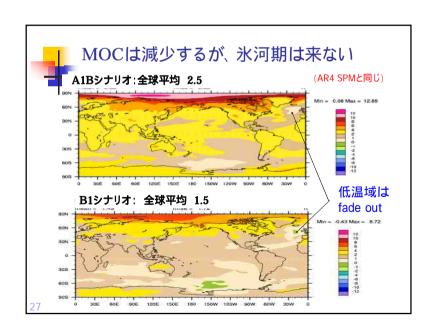


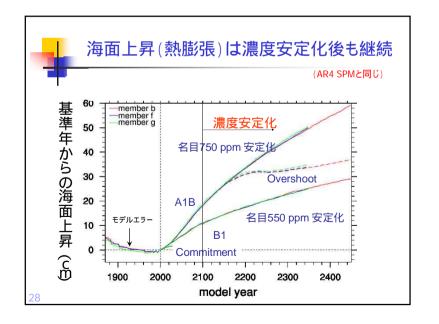


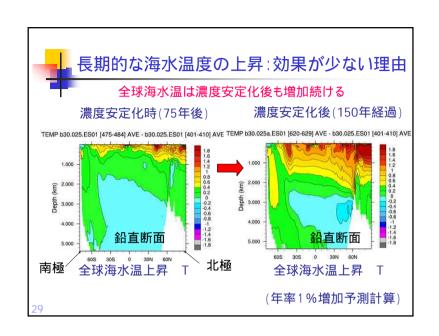




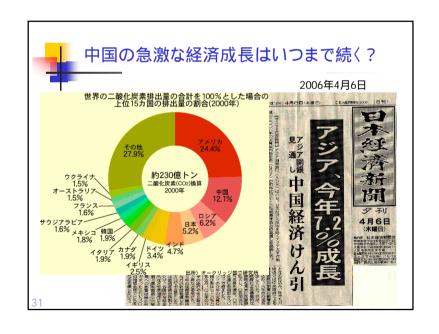


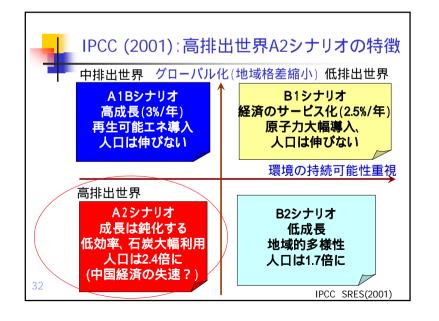


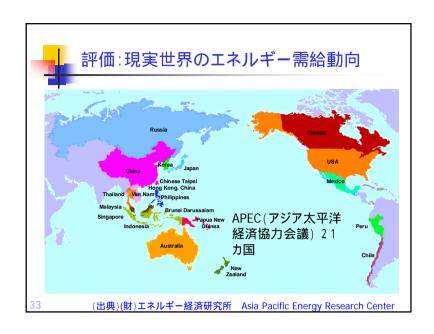


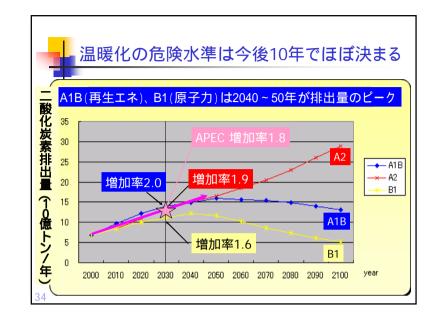




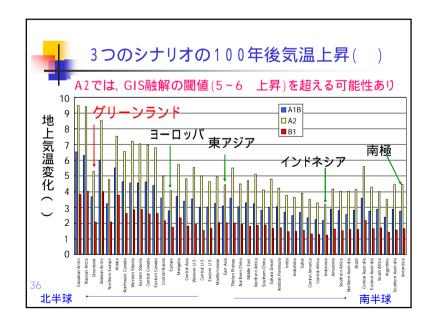


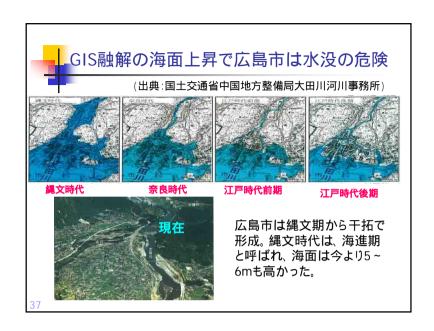


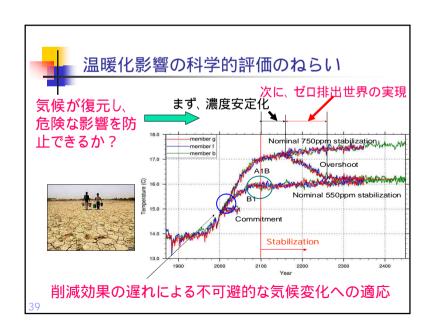


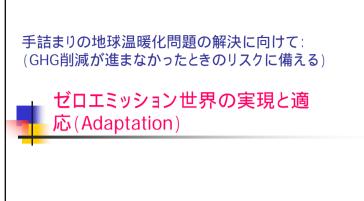












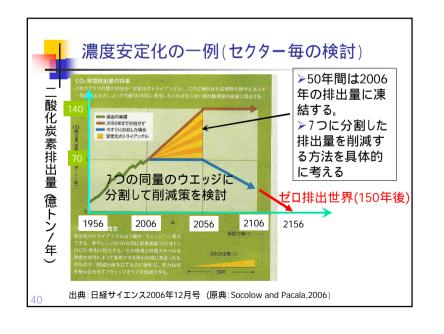
気象・気候災害のリスク管理とは:

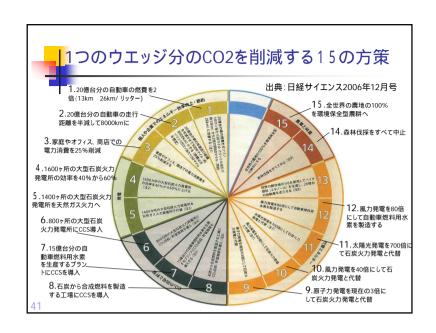
事前:災害予知技術、災害発生確率評価

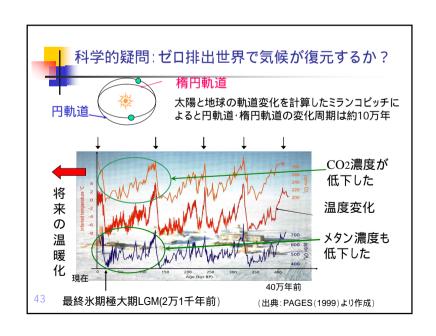
最中:災害対応策(避難、減災、防災)

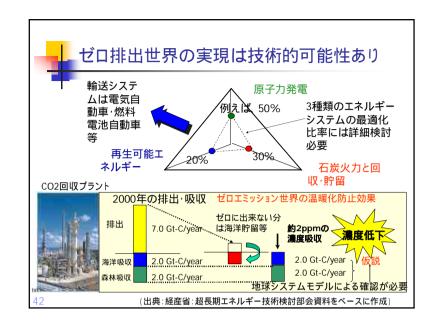
事後:災害復旧対策

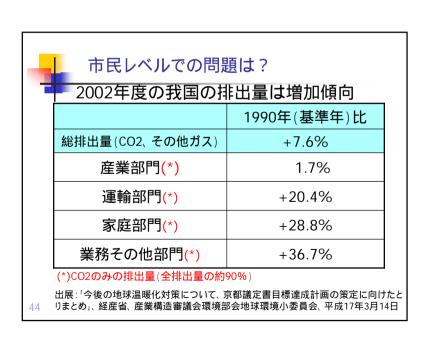
38













まとめ

■温室効果ガスの大気中濃度を安定化しても気候は変化を続ける。

今後の対応は

- まず、大幅削減で濃度安定化を達成。次に、 GIS融解などの危険な影響を避けるため、ゼ 口排出世界の実現を目指すことが重要。
- 同時に、削減効果の遅れによる不可避的な 気候変化による影響を軽減するため、適応 策の検討が重要。



